発行 / 北海道厚真町



ATSUMA LOVERS

ちりばめられた新緑の水田から、カエルの鳴き声が響く季節になりました。結婚を機に厚真に移り住んで5年目。妻の実家の有限会社山ヨ藤井商店でチーフを務め、先輩の勧めで町商工会青年部の部長に就きました。「一つでも形にして、町の活性化を加速したい」。日常の景色に癒されながら意欲を燃やす黒崎さんに話を聞きました。

に田舎で暮らしたいという思いがに田舎で暮らしたいという思いがに出りた。「一番は、家族と一緒で過ごし、保険の営業マンとしてで過ごし、保険の営業マンとしてで過ごし、保険の営業マンとしてで過ごし、保険の営業マンとしてで過ごし、保険の営業マンとしていました。「一番は、家族と一緒を職を検討。妻の実家がある厚真転職を検討。妻の実施によりを礼幌市生時代から通算10年余りを札幌市生時代から通算10年余りを札幌市生時代から通算10年余りを札幌市生時代から通算10年余りを札幌市生時代から通算10年余りを札幌市生時代から通算10年余りを利用している。

下戦ぎに思っています!。客業に身を置くこともできました。のお店で働けることで、好きな接強かったことですかね。また、今

に時間を費やしました。世代を問ていることを知っています」。 しかし、最初の半年は、土地勘をなく知り合いもいなかったため、ストレスも蓄積したといいます。 「自分のことを知ってもらうには、コツコツと会話を続けていくことが大切かな」と思い、人脈づくりが大切かな」と思い、人脈づくりが大切かな」と思い、人脈づくりが大切かな」と思い、人脈づくりが大切かな」と思い、人脈づくりに時間を費やしました。世代を問



Vol.14厚真町商工会青年部 部長くろさき やすひろ黒崎 靖広さん(39歳)

先陣を切って町に活力を

ました」。

いながら、地域に溶け込みました。

人とのつながりの大切さを実感し

の理解と、

周りの人に助けてもら

の活動にも参加しました。「会社

わず来店客と会話を重ね、

商工会

い。生涯代え難い経験にしたいで ダーシップを心掛けています。 で経験した柔軟性を生かしたリー 柔道で培った冷静な判断力と営業 が商工会青年部と胸を張ります。 からこそ、人のつながりを大切に す。経営に関する勉強会を開いて か」。部長の立場で自問自答しま に組織力を高めて町を盛り上げた したい」と力を込めました。 なると信じています。コロナ禍だ は、将来の活性化の武器や財産に 仕掛けも熟考しています。 にお金が落ちるようなイベントの 会員の会社の体力を温存し、 結束力や行動力を備えているの 「今だからこそできることは何 先陣を切って、仲間と共に更 「人脈 地域

あなたに<mark>とっての</mark> 愛すべき厚真を投稿してください

#ATSUMA LOVERS